

# 2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年4月25日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	小谷 健一郎
研究課題	岐阜産地を事例とした戦後日本における地方型アパレル産地の形成と発展				
研究キーワード	地方型アパレル産地、組織能力、縫製加工業、アパレル物流加工業	当年度計画に対する達成度	3. 概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本年度は、第一の研究としてアパレル縫製加工業の経営発展を、第二の研究としてアパレル物流加工業の経営発展に関する研究を行った。調査方法として経営者等の関係者へのインタビューおよび岐阜県図書館等で関係資料の収集を行った。</p> <p>第一の岐阜アパレル縫製加工業における研究では、縫製加工企業はいかに企業存続、経営発展をしてきたのか、その原動力と要因を明らかにすることを研究目的に、リサーチクエスチョンとして①縫製加工企業の組織能力とは何か、②縫製加工企業が経営発展の過程の中で、どのような問題に直面し、それをどのようにして解決してきたのか、③産地の同業他社、ネットワークとはどのような関係で、それは時間の経過とともにどのように変化してきたのかを検討した。結論として、調査した事例の産地企業は、RQの①に対しては、経営史的に生産、販売（受注）、マネジメントに継続的な投資を行い、岐阜産地の縫製業の典型的なビジネスモデルであった「規模の経済」を追求するところから、「範囲の経済」の追求へとシフトする歴史であった。RQの②に対しては、「規模」から「範囲」へとシフトする原動力は、企業家の戦略的志向性にあったことを明らかにした。RQの③に対して、産地との関係は、産地を一貫して基盤としながら、創業期には産地の同業他社に追随して中国進出したが、発展期には産地機能を内部化することで、産地依存からの脱却を果たし、革新期にはコロナ禍をきっかけにネットワークの構築が図られた。また、戦略的な特徴として、同業他社とは異なる独自の事業展開をし、産地内外でつながりをつくることで生じるオープンイノベーションを期待する経営姿勢がみられるように変化した点があげられるといった、これまでの岐阜産地における先行研究では検討されてこなかった産地の例外的な企業の事例を経営史的に分析した点が研究上の貢献と考える。</p> <p>第二の岐阜アパレル物流加工業における研究では、アパレル加工と物流機能への投資を先駆的に行ってきた産地企業を事例として、アパレル物流加工企業はいかに経営発展してきたのか、その原動力と要因を明らかにすることを目的とし、リサーチクエスチョンとして①アパレル物流加工企業の組織能力とは何か、②個人零細企業からグローバル展開する企業へと成長した過程のなかで企業家精神はどのように発揮されたのか、③岐阜アパレル産地は企業の経営発展とどのように関係したのかを検討した。結果として、RQの①に対しては、組織能力として企業家精神の発揮、企画、生産、受注、サプライチェーンの構築への継続的な投資をし、繊維加工による製品への付加価値と物流機能がうみだすスピード化といった商品への付加価値の2つの付加価値を指向する組織能力の形成がみられたことを明らかにした。そしてこれは結果として、刺繍業と物流という特異な模倣困難なビジネスモデルを構築したことが競争優位の源泉であった。またRQの②については、岐阜産地では業種的に「辺境」と位置付けられる刺繍業に参入した市場機会の発見をする能力や物流加工業へと先駆的に進出したリスクテイキングな企業家活動により、特異なビジネスモデル構築に至ったことを明らかにした。RQの③については、創業期は産地の社会的分業を基盤として刺繍業を発展させ、発展期では同業者グループを通じて海外展開について産地企業家から経営面、情報面での支援を受けるなど、産地企業ネットワーク</p>					

が事例企業の経営発展に大きな役割を果たしたことを明らかにした。また、岐阜の立地面の特性も刺繍業から物流加工業へ展開するときには有利にはたらいた点も指摘した。

以上のように本年度は、岐阜アパレル産地における2つの業種の例外的企業の事例を経営史的に検討した。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

### 【論文（査読あり）】

特記事項なし

### 【著書・論文（査読なし）】

特記事項なし

### 【学会発表等】

・「アパレル縫製加工企業の経営発展－岐阜・オールウィン株式会社を事例として－」日本流通学会中部部会 2022年7月、オンライン開催。

・「アパレル縫製加工企業の経営発展－岐阜アパレル産地を事例として－」日本流通学会第36回全国大会、2021年10月、オンライン開催。

・「アパレル縫製加工企業の経営発展－岐阜・箕島刺繍を事例として－」日本流通学会中部部会、2021年12月、オンライン開催。

## 3. 主な経費

・研究図書等の資料購入に使用した。

## 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

### 【科学研究費】

・若手研究：平成31年度～令和4年度、代表：小谷健一郎、課題名「岐阜産地を事例とした戦後日本における地方型アパレル産地の形成と発展」（19K13761）

### 【その他の活動】

・千葉県中小企業振興に向けた研究会委員（千葉県）